

ユーラシアンクラブ創設 20 周年の集い 江藤セデカ／バー・ボルド新体制のユーラシアンクラブを応援してください

私がユーラシアンクラブを構想し、立ち上げたのは、ペレストロイカで旧ソ連が崩壊したロシアや、改革解放政策の中国から日本への留学生が来日し始める時期を迎え、「アジア」の窓が開けた時期である。それまで、日本列島の人と文化の北方の系譜を探る「北方ユーラシア学会」（江上波夫会長）の理事・事務局長として、考古学、民族学、言語学、人類学の調査の進行をコーディネートしていたが、生きている人間の理解、親睦、交流の枠組みが必要だと考えるようになり、ロシア・沿海地方への視察ツアー、準備会の設置、そして 1993 年 2 月 10 日九段会館に少数民族代表団 14 人を招へいしての国際シンポジウムでユーラシアンクラブは創設された。団体の名称を「アジアクラブ」とせず「ユーラシアンクラブ」としたのは、いずれ「アジアの時代」が来て、「アジア」を超えて国家民族宗教を超えた人間関係の枠組みが議論される時が来る、との考えからでした。

しかし、日本では、ユーラシア大陸、アジアの諸民族とりわけ少数民族・先住民族への理解が不足していることから、少数民族の自立支援の活動の前提としての「理解の促進」への考慮が必要となり、インターカレッジ文化講座「ユーラシアンフォーラム」や留学生とのフォーラム、少数民族村シカチアリの自立支援の活動などを展開しました。しかしこれは村への支持拡大にはつながりませんでした。現地地方政府関係者、少数民族村指導者との意識ギャップも活動を阻害しました。15 年ほど前からは、音楽を通じた諸民族の理解促進にも取り組み、その総決算ともいべき活動として 2012 年 9 月に日本・ウズベキスタン国交 20 周年記念音楽のシルクロードツアーを実施しました。

数年前から、地域拠点型活動の展開を掲げ、本部事務所を東京都中央区日本橋室町に移転すると共に、大野遼が住む愛川町に支部「愛川サライ」を立ち上げ、活動を拓いています。また「日本人クラブからの脱皮」「情報通信化」を議題に話し合いを続け、2012 年 6 月に、江藤セデカ理事長、バーボルド副理事長を中軸とする、今後 10 年を見越した新しいユーラシアンクラブの執行部が誕生しました。

ユーラシアンクラブ創設 20 周年の集いは、満 20 年を迎える 2012 年 4 月 28 日に開催されます。

新理事長の江藤セデカは、在日年数が母国アフガニスタン在年数を上回るアフガニスタン人でもあります。年来の祖国の戦禍を憂い、NPO 法人イーグル・アフガン復興協会を設立し女性や子供を中心としたアフガニスタン支援の活動を続けてきました。

副理事長のバー・ボルドは、モンゴル子ども文化基金を立ち上げ、子供たちの修学資金援助を行う一方、3 年連続モンゴル相撲学生チャンピオンであった経験を生かし、モンゴル・ブフ・クラブを主宰、大相撲で活躍するモンゴル人力士の支援者、在日モンゴル人のリーダー的存在です。

アジアの基層文化形成に大きな影響を与えたペルシャやモンゴルの文化を軸としたアジアの絆形成を視野に入れた新しいユーラシアンクラブの展望を皆様と共有したいと思います。

20 周年の集いにご参集いただくようご案内いたします。

2013 年 2 月

特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 会長 大野 遼
理事長 江藤 セデカ
副理事長 バー・ボルド（富川 力道）